

平成30年度『弁当の日』の取組みについて

目的

- ① 子どもの食育推進。
- ② 『弁当の日』を通して子どもたちの人格形成につなげる。
- ③ 子どもを通して、家族、地域へ食育。
- ④ 学校の食育を、子どもを取り巻く地域・行政等が支援し、健康づくり・人づくり・町づくりを推進していく。

平成30年度支援経過

南丹市内4校実施

八木東小学校、園部第二小学校、殿田小学校、美山小学校

<八木東小学校> 再編4年目！！1年を通して、「食」を通して生きる力を培う。

「梅干づくり応援隊」	6年生を対象に、食生活改善推進員の支援により、梅干しの仕込み、重石の調整、しそ入れ、天日干し等を3回の授業で実施。(6月～7月)
「野菜作り応援隊」	5、6年生を対象に、老人クラブの方に野菜作り、草ひき等一緒にお世話になる。じゃがいも、かぼちゃ、さつまいも等が収穫され、弁当づくりの野菜料理に活用される。5、6年の児童も金曜日の放課後に老人クラブの方と一緒に取り組んだ。(6月～10月)
「栄養授業」	5年生の授業で「弁当の日の取組み」「バランスのとれたお弁当の入れ方」について話をする。(10月29日)
「お弁当作り応援隊」	5、6年生を対象に栄養指導を実施し、その後食生活改善推進員の支援により、収穫した野菜を利用した調理実習を実施。1人1品作成。 (11月に6年2日間、5年2日間実施)
「切干大根応援隊」	3、4年生を対象に、健康づくり推進協議会(女性会、食生活改善推進員協議会)の支援を受け切干大根作りを実施。H31年1月30日(水) 3・4年生]
「6年生感謝の会」	6年生が保護者に対してお弁当を作り感謝を伝える(H31.3.5)

◇「弁当の日」の実施 平成30年12月10日(月)

<園部第二小学校>再編4年目！！「食」に関する実践力を培う(管理、選択、調理力)

「学年PTAに対して講話」	6年生の授業参観にあわせ、竹下先生のDVDの鑑賞、「弁当の日の取組み」について学校で実施される。(1学期)
「お弁当作り応援隊」	6年生を対象に栄養指導を実施し、その後食生活改善推進員の支援により、主食、主菜、副菜のバランスを考えた調理実習を実施。 (栄養授業：10月～11月 4回、調理実習：11月 2回)
「買い物体験」	6年生を対象に、食生活改善推進員が同行し、食材の買い出しをおこなう。1人1,000円以内で、彩りやバランスを考えて買い物する。 (11月19日)

◇「弁当の日」の実施 平成30年11月22日(木)

※弁当の日の参観で、見学した5年生と6年生が意見交流を行った。

＜殿田小学校＞野菜づくり、おかずづくりの応援隊と学校が連携し、「弁当の日」の取組みを充実。

- 「野菜作り応援隊」 平成27年度より老人会の方に野菜作り、草ひきを支援いただく。立派な三度豆、万願寺、さつまいも、かぼちゃが収穫され、弁当づくりの野菜料理に活用される。5、6年生を中心に老人クラブさんに支援いただいている。(6月～)
- 「お弁当詰め体験」 5、6年生が、学校の栄養教諭の指導を受け、給食のメニューを彩りや、バランスを考えお弁当箱に詰め込む体験をおこなう。(5月28日)
- 「お弁当作り応援隊」 5、6年生を対象に食生活改善推進員の支援により、収穫した野菜を利用した調理実習を実施。5年生は調理実習～お弁当詰め、6年生は野菜のおかずを1人1品仕上げる。(11月に2日間実施)
- 「弁当の日だよりを発信」 学校がたよりを作成し、調理実習や野菜づくりの様子、子ども達の感想を添えて定期的に保護者や地域に発信。

◇「弁当の日」の実施 平成30年12月10日(月)

＜美山小学校＞再編3年目！様々な食の体験を活かして、「弁当の日」を実施。

- 「参観日にあわせて講話」 6年生の授業参観にあわせ「弁当の日の取組み」「バランスのとれたお弁当」について、取組みに繋がる講話をおこなう。(1月29日)
- 「お弁当作り応援隊」 6年生を対象に、食生活改善推進員の支援により、「バランスのよいお弁当のおかずづくり」の調理実習を実施。(2月5日)
- 「おにぎらずづくり」 5年生においても、食生活改善推進員協議会の支援により、おにぎらず作りを行ない、次年度の取組みに繋げる取組みを行なう。(1月25日)

◇「弁当の日」の実施 平成31年2月12日(火)

＜平成30年度弁当の日アンケートの実施＞

- ・「弁当の日」実施校の児童、保護者、応援隊、教師(後のみ)対象にアンケートを実施。
アンケート(前)実施時期：平成30年9月～10月
アンケート(後)実施時期：事業終了後から随時(平成31年3月には回収完了)

「弁当の日」の取組みを南丹市・南丹市外に広く啓発

- ・京都新聞 丹波版「口丹随想」で「弁当の日」を掲載。
- ・月刊『学校の食事』7月号に『地域と共に取り組む「弁当の日」』を掲載。
- ・第12回食育情報交換会で『地域が支える生きる力を育む「弁当の日」の実践発表。8月9日(木)大阪ガス ハグミュージアム
- ・生食協会月刊誌「むすび」に「第12回食育情報交換会」での南丹市の実践発表が掲載される。
- ・京都府食生活改善推進員協議会交流研修会で、地域とともに取り組む「弁当の日」事例発表
12月13日(木)京都府庁 福利厚生センター
- ・株式会社共同通信社主催「お弁当×おいしい記憶エピソード」の作品募集において園部第二小学6年松本夏音さんが応募され「キッコーマン賞」を受賞(別紙)
- ・広報なんたんで「弁当の日」の特集を掲載し、市民に広く啓発予定。

取組成果

児童においては

- ① 野菜を栽培し、調理し、自分で弁当を作り、いただくという、生きる力に結びついた。
- ② 健康づくり推進協議会の『応援隊』という形で、地域とつながり学ぶことが出来た。
- ③ 家族をはじめ、地域の皆さんに感謝の気持ちが生まれた。
- ④ 子ども自身の自己肯定感が高まり、人格形成につながった。
- ⑤ クラス運営、仲間づくり、家族の絆も深まり、大きな影響があった。
- ⑥ 小学生から生活習慣病予防の発信が出来、家族にも食育推進、健康づくりについて発信できた。
- ⑦ 継続されている学校においては、「次の学年では、こんなことがしたい」という意欲が感じられた。
- ⑧ この取組を通して自分たちが大人になるためにどんな力が必要かを児童自身が自覚できた。

学校では

- ① 地域の人材の発掘が出来、教育の場に新しい人材が入り、子供たちが豊かな学びが出来た。
- ② 学校が中心となり、子供を通して、家族、地域への健康づくり・食育推進の発信が出来た。
- ③ 学校再編によって、地域との関係が薄れてしまうことを懸念されていたが、応援隊として、地域の協力を受けることで、食育を通して地域の子どもたちを地域で育てていく体制づくりが定着してきた。
- ④ 実施校の「弁当の日」の担当者と地域（応援隊）が少しずつ繋がり、今迄の内容を引き継ぎつつ、新たな体制を整えて実施する事が出来た。
- ⑤ 学校栄養教諭も「弁当の日」の取組に参加し、一緒に子ども達の食育に取組む事が出来た。また、中学校においても「弁当の日」の取組を実施される広がりが見られた。
- ⑥ 授業日数やカリキュラムの関係で時間の確保が難しい中、各校と十分協議を行ない各校に応じた内容で取組を継続することが出来た。

健康づくり推進協議会として

- ① 『弁当の日』に関わる団体が有機的につながり、連携し共通の目標に向かって進むことが出来た。
- ② 以前は、小学校に各種団体が入ることが難しかったが、弁当の日の取組みをとおり、学校と連携をとった事業が年々増加し、組織自体の活性化が図れ、組織の成長、活動の発展につながった。
- ③ 『応援隊』として『弁当の日』に関わることで、「野菜を作り、調理し、食べる」喜びや感動を肌で感じ取り、共感し、支援した会員も元気になることができた。
- ④ 今年度は、「弁当の日」の取組を京都府内外に広く発信する事が出来た。このことから、組織の成長や、さらなる発展に繋がった